
委員 井上隆司、尾野恭一、○久保義弘、鍋倉淳一、持田澄子、矢田俊彦、柚崎通介

報告事項 委員会報告の形式から逸脱した箇所もあるが、今期の国際交流活動について記す。

1. オーストラリア生理学会大会 (AuPS2014) での PSJ-AuPS シンポジウムの実施について

AuPS2014 (2014年11月30日-12月3日、ブリスベン) において、PSJ-AuPS シンポジウムを実施した。PSJ 講演者の相馬、久保に対し、各々1,000 オーストラリアドルの旅費支援が与えられた。

PSJ-AuPS symposium (2014/12/2)

“Frontiers of molecular mechanisms of ligand recognition and activation of receptor channels”

Chairs: Dr. Yoshihiro Kubo & Dr. Trevor Lewis

Speakers

Dr. Trevor Lewis (Univ New South Wales, School of Med Sci)

Dr. Brett Cromer (Health Innovations Res Inst, RMIT)

Dr. Yoshiro Sohma (Keio Univ School of Med)

Dr. Yoshihiro Kubo (Natl Inst Physiol Sci)

実施後、オーストラリア生理学会の Newsletter に、写真付きで以下のように紹介された。
“The Brisbane meeting also included a joint symposium with the Physiological Society of Japan (PSJ), with the tentative plan being for such a symposium to be held on an annual basis alternately in Australia and Japan. The PSJ is a very active society with almost 3000 members, and their executive is keen to foster a closer relationship with AuPS to better facilitate scientific exchange. The symposium this year was on ‘Frontiers of molecular mechanisms of ligand recognition and activation of receptor channels’, with presentations by Yoshiro Sohma (Keio University) and Yoshihiro Kubo (National Institute of Physiological Sciences), joining AuPS members Trevor Lewis and Brett Cromer. After presenting his unpublished data incorporating extraordinary technical advances in atomic force microscopy to image individual ion channels, Professor Sohma rightly quipped about the return of Japanese innovation, and I and the audience could only heartily agree.”

また、現会長の Graham Lamb 教授と緊密なコミュニケーションをとることが出来た。AuPS は、大会参加者数等の規模はあまり大きくないが、発表および質疑応答のレベルが高いことが印象的だった。特に、筋生理、運動生理分野が充実しているように感じた。これを機に、今後の連携を強化していくために、PSJ大会でのPSJ- AuPSシンポジウムの企画および実施

を検討していきたい。

2. 第92回生理学会大会・第120回解剖学会総会・合同大会における国際交流関連シンポジウムの企画について

(既に報告済みの内容だが、再記する。)

第92回大会で、(2)(3)(4)の3件を実施する。

(1) KOJACH シンポジウムの日韓、日中、両シンポへの発展的変更について(確認事項)

これまで、PSJ 大会において、毎年、韓国生理学会 (KPS) および中国生理学会 (CAPS) と3国で、KOJACH シンポジウムを実施してきた。今回、韓国生理学会 (KPS) からの申し入れを受け、中国生理学会 (CAPS) とも相談を行い、両者の合意を得て、今後、KOJACH シンポジウムを、発展的に解消して、KPS-PSJ シンポジウム、CAPS-PSJ シンポジウムのふたつに分けて実施することとし、鹿児島大会から開始した。どちらも、毎年1人ずつ講演者を招いて実施する(全体で毎年2人)ため、(KPS, CAPS から1人ずつ計2名を招待していた) KOJACH シンポジウムと、予算規模に変更はない。経費は、これまでの KOJACH シンポジウムの予算を充てて実施する。

鍋倉 FAOPS2019 組織委員会委員長の要請により、上記両シンポジウムに、-- Towards FAOPS2019 (FAOPS2019 に向けて) -- といった副題を付記する。

(2) 日中合同シンポジウムについて

下記のシンポジウムを3月23日に実施する。生理サイドから2人(日本と中国から一人ずつ)、解剖サイドから2人(日本と中国から一人ずつ)の4人の講演者で構成する。

Japan-China Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Recent Advances in Organellar Morphology and Physiology”

日中合同シンポジウム -FAOPS2019 に向けて-

「細胞内小器官の形態学および生理学研究の新たな展開」

Chairs: Dr. Satoshi Waguri & Dr. Yoshio Maruyama

Speakers:

Dr. Sha Hongying (State Key Laboratory for Medical Neurobiology, Fudan University) **PSJ 招待**

Dr. Xiuying Zhang (Capital Medical University School of Medicine, Beijing) **解剖側招待**

Dr. Yoshio Maruyama (Dept Physiol, Tohoku Univ Graduate School of Med)

Dr. Satoshi Waguri (Dept of Anatomy and Histology, Fukushima Medical Univ)

(3) 日韓合同シンポジウムについて

下記のシンポジウムを3月22日に実施する。生理サイドから2人(日本と韓国から一人ずつ)、解剖サイドから2人(日本と韓国から一人ずつ)の4人の講演者で構成する。

Japan-Korea Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Morphological and Physiological Approaches to Synaptic Transmission”

日韓合同シンポジウム -FAOPS2019 に向けて-

「シナプス伝達への形態学および生理学的アプローチ」

Chairs: Dr. Sumiko Mochida & Dr. Masahiro Watanabe

Speakers:

Dr. Suk-Ho Lee (Dept Physiol, Seoul Natl Univ. College of Medicine) **PSJ 招待**

Dr. Kea Joo Lee (Synaptic plasticity & circuit mapping lab, Korea Brain Res Inst) 解剖側招待

Dr. Sumiko Mochida (Dept Physiol, Tokyo Med Univ)

Dr. Masahiko Watanabe (Dept Anatomy, Hokkaido Univ Graduate School of Med)

(4) 日独合同シンポジウムについて

下記のシンポジウムを、3月23日に実施する。生理サイドから1人(日本から)、解剖サイドから2人(日本とドイツから一人ずつ)の3人の講演者で構成する。

Japan-Germany Joint Symposium

“New bridge between Germany and Japan for basic medical sciences”

日独合同シンポジウム

「日本とドイツにかける医学研究の新たな橋」

Chairs: Prof Naoto Kobayashi (Ehime Univ) & Prof Takeshi Sakaba

Speakers:

Prof Friedrich Paulsen (Dept Anatomy, University of Erlangen-Nuremberg) 解剖側招待

Prof Koji Satoh (Hamamatsu Med Univ)

Prof Takeshi Sakaba (Doshisha Univ Grad School of Brain Science)

3. FAOPS Congress 2015 (タイ) への協力について

(1) FAOPS2015 において実施する PSJ 提案のシンポジウムについて

(既に報告済みの内容だが、再記する。)

FAOPS Congress 2015(タイ)にて、PSJの提案した以下のシンポジウム2件が実施される。

Title: **Organ homeostasis and thyroid hormone action.**

Organizer: Dr. Noriyuki Koibuchi

Speakers:

Dr. Paul M. Yen (Duke-NUS Graduate Medical School, Singapore)

Dr. Medan M Godbole (Gandhi Postgraduate Institute of Medical Sciences, India)

Dr. Noriyuki Koibuchi, (Gunma University Graduate School of Med, Japan)

Title: **New Mechanisms and New Roles in the Locus Coeruleus**

Organizers: Dr. Fusao Kato and Dr. Saeed Semnanian

Speakers:

Dr. Min Ming-Yuan (National Taiwan Univ, China (Taiwan))

Dr. Saeed Semnanian, (Tarbiat Modares Univ, Iran)

Dr. Fusao Kato (Jikei University School of Med, Japan)

(2) FAOPS2015 事務局長 Suchinda Malaivijitnond 教授との意見交換について

FAOPS2015 事務局長 Suchinda Malaivijitnond 教授が、他用務で 2014 年 12 月に日本滞在された折に、慈恵医大にて加藤副理事長と栗原理事長が、生理研にて久保と鍋倉 (FAOPS2019 会長) が面談し、神戸大会での FAOPS2015 の宣伝活動の企画等について、意見交換を行った。

(3) 第 92 回生理学会大会（神戸）における FAOPS2015 の宣伝活動の支援等について

(FAOPS 準備委の報告とも重複すると思われるが、ここでも記す)

FAOPS2015 の組織委員会委員長 Chumpol Pholpramool 教授および事務局長 Malaivijitnond 教授が、神戸大会に参加される。岡村大会長のご配慮により、FAOPS2015 宣伝ブースを無料で確保していただき、また、総会、および全体懇親会での、手短な宣伝プレゼンの時間を確保していただいた。FAOPS President の Julie Chan 氏 (台湾) も、神戸大会に参加される。

(4) 今後の交流について

Malaivijitnond 教授の所属する Chulalongkorn 大学と生理研が、学術交流協定を結んでいる恰好の状況にあるので、今後も、Chulalongkorn 大学を起点に、FAOPS2015 ひいては FAOPS2019 の成功に向け、連携を継続していきたい。FAOPS2015 は、早期参加登録締め切りが 3 月 31 日、演題登録締め切りが 6 月 30 日なので、多数のご参加を検討いただきたい。

5. 韓国生理学会 KPS2015 における、PSJ-KPS シンポジウムの提案について

前会長の Byung-Il Min 教授と、毎年、PSJ 大会にて日韓シンポジウムを実施すること、隔年で、KPS 大会にて韓日シンポジウムを実施することを、基本合意している。2015 年は、KPS 大会における韓日シンポジウム実施の年にあたるので、現会長の Chang Kook SUH 教授と相談を進めていく。

6. 今後の国際交流活動

FAOPS 2019 の成功に向け、アジアオセアニア諸国との連携や学術交流を考えた時に、まずは、これまで連綿と交流を行ってきた中国、韓国との関係を維持するとともに、オーストラリア、タイとの連携を充実させていきたい。他の諸国との交流もちろん重要だが、アジアオセアニアにおいては、まずは、この 4 か国との交流および連携を強化することを目指したい。

常任幹事会への提案(議事として諮りたいことをお書き下さい)

無し。